

掲 示 板

2019年度 第4号 通巻98号 2020年3月 日発行



アユの天ぷら

フィールドレポーターの思い

こんにちは、総括学芸員の桑原雅之です。私は、平成12-14年の3年間フィールドレポーターの担当をしていました。ひょっとしたら、覚えておられる方もあるかもしれません。多くの皆さんと地域での交流会や野外調査をしたことをよく覚えています。今回掲示板の原稿を書くにあたって思い起こすと、当時は今と違って掲示板も紙ベースでした。皆さんからいただいた投稿をスキャナーで取り込んで編集し、スタッフの皆さんと総出で印刷・製本し、発送するという作業を行っていたのを懐かしく思い出します。今ではPDFでカラー写真もふんだんに使えるようになり、格段に読みやすくなりました。ただ、皆さんの手書きの文字がなくなってしまったのは、ちょっとだけさみしいかなとも思います。

ところで、今号の内容を見ると、フィールドレポーター調査にまつわる内容が多いようです。山崎さんの「食の調査・集計始まる」では、長等商店街の八百与とタニムメ水産が紹介されています。どちらも文化館時代からよく行ったお店なので懐かしく思いました。また、フィールドレポーターの皆さんが、精力的に調査に取り組んでおられる様子もよくわかりました。できれば、皆さんが普段の生活の中で気がついたことや疑問に思ったことを、投稿していただくようなちょっとした内容がもっと盛り込まれていくと良いなと思いました。

私は、この3月末で定年退職します。これからもフィールドレポーターを楽しんでいただき、琵琶湖博物館のファンになっていただけると幸いです。長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。

総括学芸員 桑原雅之

☒ ☒ . . . ☒ ☒ ☒ ☒ も く じ ☒ ☒ ☒ ☒ . . . ☒ ☒

	巻頭文	学芸員	P1	3	橋の欄干でアートを 楽しむ	井上修一	P6
1	近江の食調査集計 はじまる	山崎千晶	P2	4	今年のタンポポ事情	近江心気郎	P8
2	湖南・湖東地区の勸 請吊り見見聞録	寺澤孝之	P4	5	活動報告・予定	編集局	P10

1. 近江の食調査集計はじまる

FRS 山崎 千晶

2019年度第2回調査「近江の食調査」の集計がはじまりました。

調査用紙は約500部を印刷してレポーター全員に配布すると共に、博物館各所にも配置して、入館された一般の方々の投稿も募りました。他に知人用にコピーし、ネットから印刷して参加して下さった方も含めて、調査期間（2019年12月～2020年2月末時点）での参加人数は155人でした。今回は、お聞きした内容10項目の内、1～6項目までについて報告します。

問1 フィールドレポーターですか？

はい	47人	30.32%
いいえ	104人	67.09%
(家族・知人・ロビー設置等)		
記入無	4人	2.58%

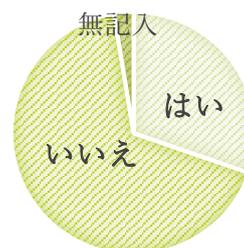


図1. フィールドレポーターですか

問2 性別

女性	87人	56.12%
男性	66人	42.58%
記入無	2人	1.29%

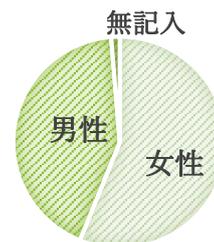


図2. 性別

問3 年齢

10歳迄	2人	1.29%
10歳代	1人	0.64%
20歳代	6人	3.87%
30歳代	11人	7.09%
40歳代	22人	14.19%
50歳代	17人	19.96%
60歳代	41人	26.45%
70歳代	46人	29.67%
80歳代	9人	5.80%

フィールドレポーターの60～70歳代が多いので、その家族や知人も近い年代の方が多くなったようです。

問4 滋賀県在住ですか（過去在住含む）

はい	144人	92.90%
いいえ	7人	4.51%
(京都4人 大阪・三重・石川：各1人)		
記入無	4人	2.58%

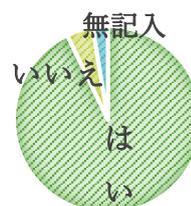


図3. 滋賀県在住ですか

問5 主に住んでいるのは（多い順）

草津市	45	人	29.03%
大津市	37	人	23.87%
守山市	20	人	12.90%
野洲市	8	人	5.16%
近江八幡市	8	人	5.16%
栗東市	7	人	4.51%
湖南市	5	人	3.22%
高島市	5	人	3.22%
東近江市	4	人	2.58%
長浜市	3	人	1.93%
甲賀市	1	人	0.64%
米原市	1	人	0.64%

フィールドレポーターの登録者とその家族や知人は地理的にも琵琶湖博物館の周辺に多く在住されているので、必然的に滋賀県北部のデータが少ない傾向が見られます。

問6 滋賀県に在住していた期間を塗りつぶしてください。

滋賀県生まれ（0歳から斜線あり）	65人	41.93%
滋賀県外から滋賀県に移住	85人	54.83%
滋賀県に住んだ事が無い	4人	2.58%
滋賀県在住だが塗りつぶしの記入が無い	1人	0.64%

問7の食材名、問8の料理名の中身は多彩です。これは今回調査のメインテーマでもありません。問9の5年後にも残したい食材や料理名、問10食の思い出やおすすめの食にも様々なコメントを頂いていますので、興味ある結果が出てくる事と思います。

現時点では回答の内容に深く踏み込んでいません、ようやくすべての資料の整理が終わったところです。近江の食に関わるたくさんの記述を頂いた皆様の思いに答えるべく、これから格闘が始まります。

傾向としては、滋賀県に在住した長短よりも、滋賀県生まれかそれとも県外からの移住かの違いで、味覚が形成される幼少期の環境や習慣が大きく影響するのではないのでしょうか。常日頃から近江の食に親しみがあるのは、滋賀県産れの方が多そうです。

幼少の頃より食べ慣れた食材や調理は強く個人の記憶に留まり、成人してもその好みは変わらないようで、これが郷土食の根幹を形成するのではないかと考えられます。滋賀県でも琵琶湖から離れた山間部になると、魚介系にはあまりなじみがないといった方もおられました。

滋賀県外から移住された方は近江の食を食べ慣れていない、知らないと言われる方が多いようです。

集計には少し時間がかかりますが、例年行なっているフィールドレポーター交流会（5月予定）では、検討を加えた報告が出来るよう進めたいと考えています。



日野菜

大津市・長等「八百与」さんで撮影

2. 湖東・湖南地区の勧請(かんじょう) 吊り見聞録

寺澤 孝之

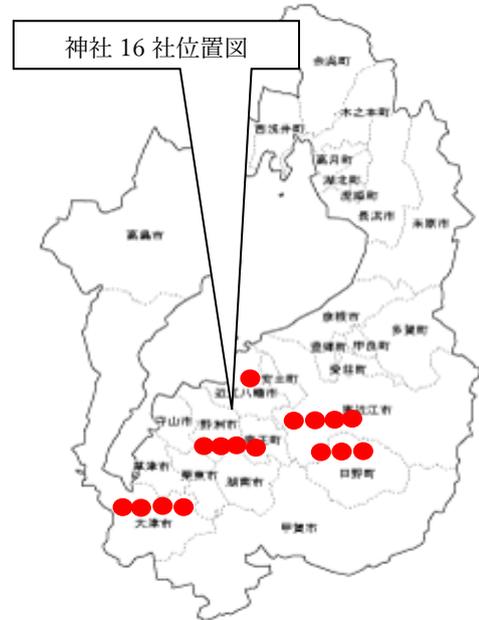
滋賀県の湖東地区・湖南地区を中心に残る勧請吊りの風習を訪ね歩いた。地区で微妙に異なり特徴のある形状を写真に収め、また、一部の地域では居合わせた古老からの聞き取りも行った。

勧請吊りは、地区によっては「おこない」ともいい、年末から旧正月にかけて各在所の神社の参道に、神域と俗界を分け隔てる結界のしるしとして吊るされると伝えられている。

直接鳥居に架けられるもの、参道の左右に生える立木の幹を利用して掛けられるもの、専用に建てた金属ポールに架けられるもの等、神社ごとに異なる。

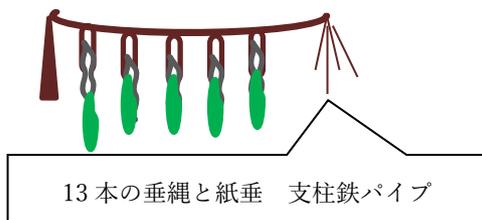
今回実際に歩いて調査した神社は、右図に示した湖東・湖南地区の16社である。代表的な形式を下図に写真とイラストで紹介するが、近隣地区でありながらも少しずつ形式や使われている材料に違いが見られる。古老へのヒアリングでは世話をされていた長老が代替わりしたので、今年から少し飾りが小さくなったとお聞きしたように、長い伝承の中で少しずつ形を変えて来ているのかも知れない。

日野町西明寺の県道522号線沿いにあった山道入口の勧請吊りは、まさしく村への邪気の侵入を防ぐための「山の神」信仰に根付くものようであり、結界のしるしとしての古人へのロマンを感じた。



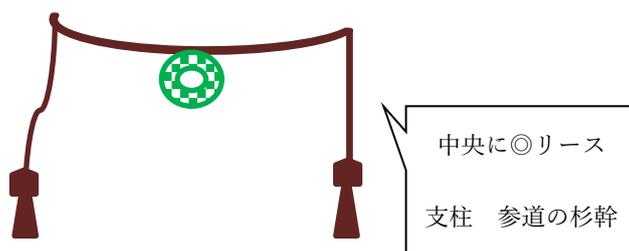
■県道522号線日野町西明寺付近の山道入口勧請吊り

〔図・写真撮影：寺澤孝之〕



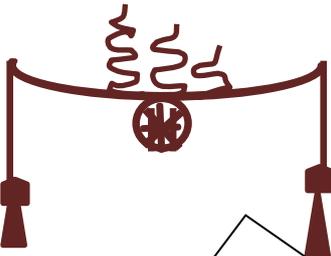
■白鳥神社（東近江市高木町）の勧請吊り

〔図・写真撮影：寺澤孝之〕



■白鳥神社（東近江市石谷町）の勸請吊り

〔図・写真撮影：寺澤孝之〕



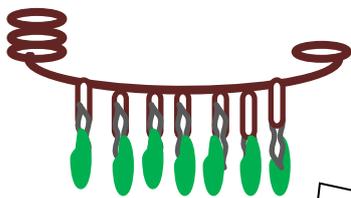
中央に◎と蛇飾り 支柱金属パイプ



白鳥神社（東近江石谷町）

■熊野神社（東近江市日野町）の勸請吊り

〔図・写真撮影：寺澤孝之〕



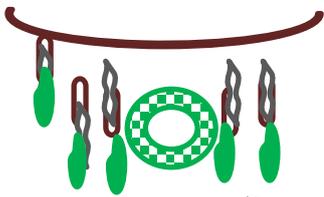
参道の杉の幹に巻付け 13本の櫛と紙垂



熊野神社（東近江石谷町）

■奥石(おいそ)神社（近江八幡市安土町老蘇）の勸請吊り

〔図・写真撮影：寺澤孝之〕



参道の木の幹に巻付け 径1mリースと13本の垂縄



奥石神社（近江八幡安土町）

■新川神社（野洲市野洲）の勸請吊り

〔図・写真撮影：寺澤孝之〕



径1m竹ひごリース4ヶ 13本の紙垂 17本の垂縄



新川神社（野洲市野洲）



2020年は閏年のため お飾りの数は13本である。(平年は12本) 以上

4. 橋の欄干でアートを楽しむ

投稿 井上修一

橋の親柱や欄干には、その橋を利用する人々の強い郷土愛を推察できる装飾が施されていることがあります。今回は橋の欄干に注目してみたいと思います。欄干は、業界用語としては「防護柵」または「高欄」と呼ばれていますが、そのデザインは、格子状の鉄柵やガードレール状の構造体であることが多いようです。しかし一部には地元の要望を採用し、その地域の観光資源、地場産業や歴史的な風物がデザインされた絵画的なレリーフ作品で飾られています。今回はその一部で、湖東や湖南地区で見つけた欄干をご紹介します。

(1) 近江八幡市

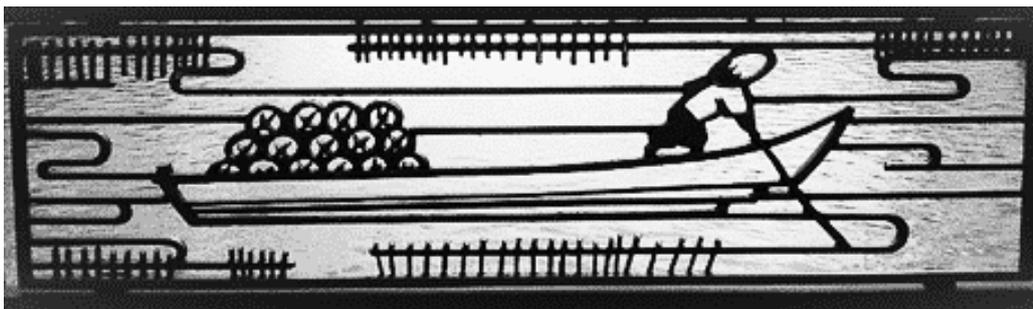
①長命寺川白王橋の欄干と親柱



親柱

長命寺を泳ぐ鴨と屋形船が描かれています。親柱は更にユニークで、八幡堀沿いの蔵を模したものになっています。親柱と欄干のコンビが、ほのぼのとした旅情を感じさせます。

②長命寺川渡合橋の欄干



米俵を積んだ船が川を下り琵琶湖に向かっていく様子。透かし彫りを通して見える川面の動きとの相乗効果で、船が動いてように見えます。

(2) 栗東市葉山川手原橋

栗太八景を描いた水墨画の陶板が、掲示されています。ふりがな付き漢詩と場所の地図が併設されており、市内各地を訪れてみるのもよいでしょう。



(3) 野洲川

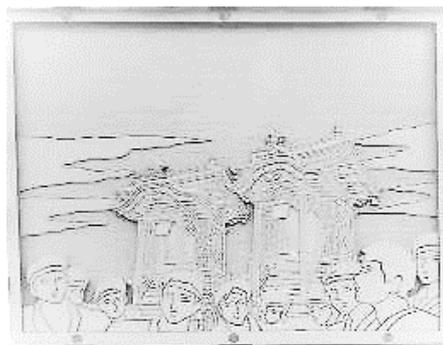
①御代参橋（ごだいさんばし） 土山から日野に至る御代参街道の起点です。



春日局が伊勢神宮から多賀大社へ参詣する様子が描かれた見事なレリーフ

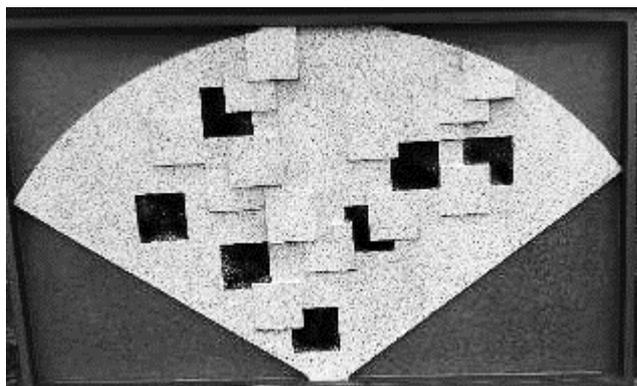
②水口大橋

水口曳山祭りの様子が描かれたレリーフです。



③湖南省甲西大橋

天然記念物 美松（うつくしまつ）の抽象表現です。



美し松は根本近くから幹が放射状に分岐しており、まるで開かれた扇のような樹形をしていることから、欄干に扇形の抽象画として描かれています。

甲西大橋南西約2 kmに国内唯一自生地があり、約20株が保護されています（滋賀県湖南省平松541）

自生地は下草も刈り込まれ、良く手入れされています。



(4) まとめ

ユニークな欄干のデザインを発見し、その由来を知ることは時間がかかりますが、興味深い作業です。これからも、少しずつ情報を集めご紹介したいと思います。

4. 今年のタンポポ事情

投稿 近江心気郎

令和2年は、とてもものどかな気候の正月でスタートしました。

1月は全国的に降水量も少なく、雪国でも積雪が少ない暖かい日もあって、寒がりの私にはとても有り難い思いでしたが、自然界の鳥たち、草花類は多分困惑気味だったでしょう。その後は急に寒波が戻ったり、4月中旬の温かさになったり、とにかく乱れ続けの2月、3月です。結局例年より暖かめの気候の中、今年もタンポポの調査を始めることにしました。

5年ごとの西日本タンポポ調査は2019年度の予備調査年を終了し、2020年の本調査が始まっています。フィールドレポーター春の調査も「タンポポ」と決まりました。少し早めの活動開始で、家の近所に気を配ることにしました。

黄色タンポポ外来種は年中観察され、霜の降りた寒い日でも昼頃になると、道端にポツンと咲いている姿を見つけます。タンポポ観察をする前は珍しいと感じていましたが、この頃は当たり前と思えてきました。1月中旬の暖かい日、京阪石坂線の線路沿いで数十株まとまって咲いているのを観察したときは、春が来たと錯覚しました。観察開始です。



そうになると、在来種の開花時期が気になります。家の近所のタンポポ事情はだいぶ分かってきていますから、能率よく回ってみました。しかし1月中には、気配がありませんでした。2月に入ると、枯草の中にロゼットを広げる姿が見られるようになったものの、寒暖の繰り返しで花をつける気配がありません。



気温は10度程度で風がなく、体感的には暖かいと感じる絶好の観察日和。2月20日。

膳所茶臼山で、カンサイタンポポの開花を確かめました。花頭は20mmと小さく、花丈も5cm程度ながら、山の東斜面のそこそこに1株ずつしっかりと咲いていました。外苞を見ると、外片がぴったりと内片に巻き付いて、剥がれていません。カンサイタンポポだと思いました。因みに、昨年の咲き始めは2月22日と記録にあります。今年は早いようでした。カンサイタンポポだと思います。自然界では、時期が来れば成すべき事を成すという摂理で、物事は進むものだと改めて認識しました。



一斉に咲くのはこのままだと、3月後半だと思われます。毎年、カンサイタンポポが一体を埋め尽くす場所です。花頭は小さいながら、その数で一面黄色に占有する姿が今年もみられると思います。楽しみです。

近くに植えられているイロハモミジも赤い花をつけ、ここでも春が近いことを伝えてくれていました。昨年同時期の確認は、2月下旬に開花となっています。こちらでは1週間ほど、気候が早めとあってよいでしょう。

そしてもう一つ、2月23日、家の表の河原からウグイスの鳴き声が聞こえました。



バナタンポポは今年も元気です。

黄色タンポポが咲こうか咲くまいか躊躇している時でも、そこそこ気温が上がっているときは、しっかりと花を付けるものです。1月下旬には、大津プリンスホテル近くの交差点で咲いているのを観察したのを皮切りに、2月4日には守山市の農家裏で沢山咲いているのに遭遇。ひょっとしたら、キビシロタンポポかと期待しましたが、花が決め手となるクリーム色を帯びておらず、普通の白バナでありました。キビシロタンポポの生育が市街地で見つかる可能性はあると考えています。今年は山手も含め、注意して観察したいと思います



花株数の多いのは、名神大津インターから出て、国道1号線と交わる交差点。国道1号線の浜側法面は、毎年一面に白くなります。場所柄、離れたの観察ですが、2月中がピークで、3月初めにはタネを付け収束していました。写真は、付近の道ばたに拡散したとおもわれる株のものです。背が高く、花頭はとても大きいものでした。



令和元年度 1月～3月の活動報告

月	日	内容	参加者	主な議題・活動
1月	18日(土)	定例会	11名	② 食の調査中間報告 ② セミの調査まとめ進捗報告 ③ タンポポ調査内容と調査表発行時期検討
2月	1日(土)	定例会	9名	① セミ調査報告最終まとめについて ② タンポポ調査内容の具体的検討と学習 ③ FR活動について現状認識自由論議
	15日(土)	定例会	8名	① 食調査の集計について ② タンポポ調査表の確認
3月	7日(土)	定例会中止	0名	2020年度「タンポポ調査表」発送
	21日(土)	定例会中止	0名	なし

令和2年度 4月～6月の活動予定

	日 時	内 容	場 所
4月	4日(土) 13:30～16:30	定例会	交流室
	18日(土) 13:30～16:30	定例会	交流室
5月	2日(土) 13:30～16:30	定例会	交流室
	9日(土) 13:30～16:30	定例会、交流会準備	交流室
	16日(土) 13:00～15:00	FR交流会	生活実験工房
6月	6日(土) 13:30～16:30	定例会	交流室
	20日(土) 13:30～16:30	定例会	交流室

定例会は原則として、第1、第3土曜日の13:30～15:45に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、琵琶湖博物館フィールドレポーター係（Email: freporter@biwahaku.jp）までお問い合わせください。



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

編集後記

大変という事態は減多に起ることではなく軽はずみに使う言葉ではありませんが、新型コロナウイルスが原因での不安や社会的混乱は、正にこの言葉に尽きます。愛や勇気や希望を送り与えてきたと思っていたのに、社会全体が混乱していない前提があって、初めて成り立っていたのだ、その前提が無い現在は無力だ、とっているアーティストの方の言葉が重く身にしみます。フィールドレポーター活動にも、影響が少なくありません。博物館の臨時休館で、編集発行活動も正常に行きませんでした。そんな中、博物館関係者のご尽力で何とか「タンポポ調査」案内と掲示板98号発刊が出来ました。

関係者の皆さん、本当に有り難うございました。(中野)